

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

(めざす学校像) 誰もが楽しく幸せに 6 年間で過ごせる別府小学校 ～全ての子どもに居場所がある学校づくり～ (めざす子ども像) ・感性豊かに育つ子 ・自分らしく私らしく生きる子 ・みんなと心をつなげる子	この2つの実現が学校教育目標
--	----------------

2 中期的目標

1 組織運営、人の管理・育成 (1) 同僚性を育み、積極的・意欲的で一体感のある、持続可能な教職員集団を構築する。 ①教職員間の対話を重視し、個々の考えや価値観、思いを語り合える学年会やミーティングを数多く設定し「意識」の共有化を図る。そこから学校教育目標の実現に向けた改善策や新たな取組に向けた意見集約(アンケート活用も含む)を行う。 ②SC・SSW 及び教職員が連携し情報共有できるミーティングを毎週行う。 ③ICT 活用により、全ての教職員による「情報」の共有化を図る。 ◆教職員向けの学校教育自己診断アンケートにおける「学校運営」に関する項目(特に「気軽に相談ができ、お互いにエンパワメントできる居場所のある職員室となっている」(令和6年度肯定率59%)「タイムマネジメントを意識した業務の効率化が行えたと実感している」(令和6年度肯定率63%)等)の肯定率を10%以上向上させる。 (2) 教育課程作成において、全教職員・全学年で教科を横断したカリキュラムマネジメントを行い、人権教育の視点で教育活動をデザインする。 ①新年度初めにキャリア教育を軸としたカリキュラムマネジメントに関する校内研修を実施し、年間を見通したカリキュラムを作成する。 ②これまで別府小学校が取り組み大切にしてきた人権教育の視点をあらゆる教育活動に関連付ける。 2 生きる力を育む教育活動 (1) 今日の前の児童の実態に合う「わかる授業」「興味を持てる授業」の創造と実践をめざし、授業改善に取り組む。 ①年間を通じて研究協議を伴う研究授業と校内研修会を、定期的・計画的に実施する。 ②「わかる授業・興味を持てる授業」づくりをめざし、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業改善に取り組み、主体的な学び手としての児童の育成を図る。 ③「MIM」の活用などにより、低学年からの基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着をめざし、授業改善に取り組む。 (2) キャリア教育を充実させ、将来に夢と希望を描くことができる連続した学びをつくる。 ◆学校教育自己診断アンケートにおける「授業・学習」「キャリア教育」「学習環境」に関する項目の肯定率を現状値よりも10%以上向上させる。 ◆市学力定着度調査における平均正答率を前年度よりも向上させる。 3 地域連携と渉外 (1) PTA や学校運営協議会を活用して保護者・地域への双方向性のある情報発信を行い連携を図る。開かれた学校づくりの実現に取り組む。 ①学校運営協議会を実施し、別府小学校と地域が抱える課題解決に向けて共に協議・協力・協働できる場とする。 ②学校・保護者・地域との連携の基点となりうる持続可能な PTA 運営を行う。 ◆学校教育自己診断アンケート 教職員・保護者の「地域・保護者連携」「発信」に関わる質問項目の肯定率を現状よりも10%以上向上させる。(特に保護者のアンケートの回答「わからない」の割合を減らす) ◆学校運営協議会にキャリア教育担当教員、児童生徒支援コーディネーターが参加し、課題解決のための意見交換を行う。 (2) 児童の連続した成長・学びを実現できるよう、中学校区の「保幼小中連携」の在り方を新しく構築する。 ①自分と他者を大切にし、幸せな人生を考える「生きる教育」をテーマとした9年間のカリキュラムを小中連携の取り組みとして策定し実施する。 ②外部諸機関との連携を強化し、外部人材も活用しながら、校区の課題に対応した有効的な取り組みを行うことで、低年齢児からの問題行動未然防止に努める。(警察、少年サポートセンター、法務支援センター等の活用) ③保育所、幼稚園と小学校児童とが関わる教育活動の場面を増やす。 ◆学校教育自己診断アンケート 教職員の「外部との協力・連携」に関わる質問項目の肯定率を現状よりも10%以上向上させる。

3 今年度の重点目標と具体的な教育活動

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な教育活動	評価指標	自己評価
Ⅰ 組織運営、人の管理・育成	(1) 同僚性を育み、積極的・意欲的で一体感のある、持続可能な教職員集団を構築する。	(1) お互いの強みを認め合い協働・協力できる教職員集団を目指して ① 学校運営ミーティングが学校づくりの中核となり組織的な学校運営を進める。 ② 生活指導部(生活指導)と教務部(学力向上)の機能をさらに活性化し、「誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる」学校づくりを具体的に進める。 ③ 対話を重視した学年会・ミーティング、学校づくりアンケートを数多く定期的に設定・実施し、当事者意識を持って学校づくりに関わる。「意識」の共有化をめざす。そのためにも、会議の精選と取り組みのビルド&スクラップを行い時間を生み出す。 ④ ICTを活用した「情報」の共有化を図り、タイムマネジメントを意識した働き方を追求する。	(1) 学校教育自己診断アンケート	
	(2) 教職員の人材育成、資質向上	(2) 教職員の人材育成、資質向上 ① 経験の少ない教職員の授業力、学級運営力、資質向上を図るために、公開授業や校内研修会を計画的に実施する。 ② 校務における役割を担当することにより本校の一員であるという自覚と実践力を身につける。 ③ 先輩教職員は、経験の少ない教職員を育成することは自分たちの責務だという自覚を持ち、自らの教師力の向上に努力するとともに積極的に経験の少ない教職員に関わり、助言等を行う。	(2) ①研究授業・校内研修会の回数 ②③学校教育自己診断アンケート	
Ⅱ 2 生きる力を育む教育活動	(1) 今日の前の児童の実態に合う「わかる授業」「興味を持てる授業」の創造と実践をめざし、授業改善に取り組む。	(1) 今日の前の児童の実態に合う「わかる授業」「興味を持てる授業」の創造と実践をめざし、授業改善に取り組む。 ① 市学力定着調査の結果等から、児童の苦手な単元・分野を把握し、それを踏まえた授業運営と習熟方法について検討・計画する。 ② 児童の興味・関心を喚起し、意見を引き出す発問の工夫、児童相互が意見を聞き合い認め合えるような学習規律を確立する。 ③ 授業づくりの準備に時間をかけ、教材研究を大切にする。学年教員はもちろん、他学年教員、または他校教員とも交流を図り、児童に「わかる授業」「興味を持てる授業」を追求する。	(1) ①市学力定着度調査における平均正答率を前年度よりも向上させる。 ②③学校教育自己診断アンケート「授業・学習」に関する項目について肯定率を現状値より10%向上させる。	
	(2) キャリア教育を充実させ、将来に夢と希望を描くことができる連続した学びをつくる。	(2) キャリア教育を充実させ、将来に夢と希望を描くことができる連続した学びをつくる。 ①教員のキャリアカウンセリング技術を向上させるとともに、児童との肯定的な対話を通して自己を振り返り成長を促す働きかけを授業および学校生活全般において全教員が実施する。 ②特別活動を中心に学級活動および行事や取り組みの実施前後の振り返りを行い、自ら成長を振り返る活動を全校的に実施する。その際にはキャリアパスポートを活用する。 ③学校で働く教職員をはじめ外部人材、地域住民などの生き方・働き方を学ぶ機会を年間カリキュラムの中で設定し、将来の夢や希望を具体的に膨らませる活動を6年間通して実施する。	(2) 学校教育自己診断アンケート「キャリア教育」に関する項目について肯定率を現状値より10%向上させる。	

3 地域連携と渉外	(1) PTA や学校運営協議会を活用して保護者・地域への双方向性のある情報発信を行い連携を図る。「開かれた学校づくり」の実現に取り組む。	(1) PTA や学校運営協議会を活用して保護者・地域への双方向性のある情報発信を行い、開かれた学校づくりの実現に取り組む。 ① 保護者・地域住民が授業参画し、児童とともに学びを作り上げる機会を年間カリキュラムの中に数多く設定する。その際には、PTA や学校運営協議会と教職員が意見交換を行い、ICT 連絡ツール等を活用して、保護者・地域住民へ情報発信・協力者集約・運営実施を行う。 ② 学級・学年・学校での児童の様子と取り組みが日常的に保護者・地域に伝えられるよう、また負担が少なく継続して行えるよう、iPad アプリケーションなどの活用方法を検討し情報発信を推進する。 ③ 外部人材・協力者を募り、校内居場所（視聴覚室）の具体的活用・運用を行う。		
	(2) 児童の連続した成長・学びを実現できるよう、中学校区の「保幼小中連携」の在り方を新しく構築する。	(3) 児童の連続した成長・学びを実現できるよう、中学校区の「保幼小中連携」の在り方を新しく構築する。 ① 自分と他者を大切にし、幸せな人生を考える「生きる教育」をテーマとした9年間のカリキュラムを小中連携として策定し実施する。		

4
学校教育自己診断の結果と分析、学校運営協議会からの意見

学校教育自己診断の結果と分析（令和 年 月実施分）	学校運営協議会からの意見

5
学校運営協議会による令和7年度学校経営計画の承認

承認日	備考